

高崎市消防団

(1) 沿革

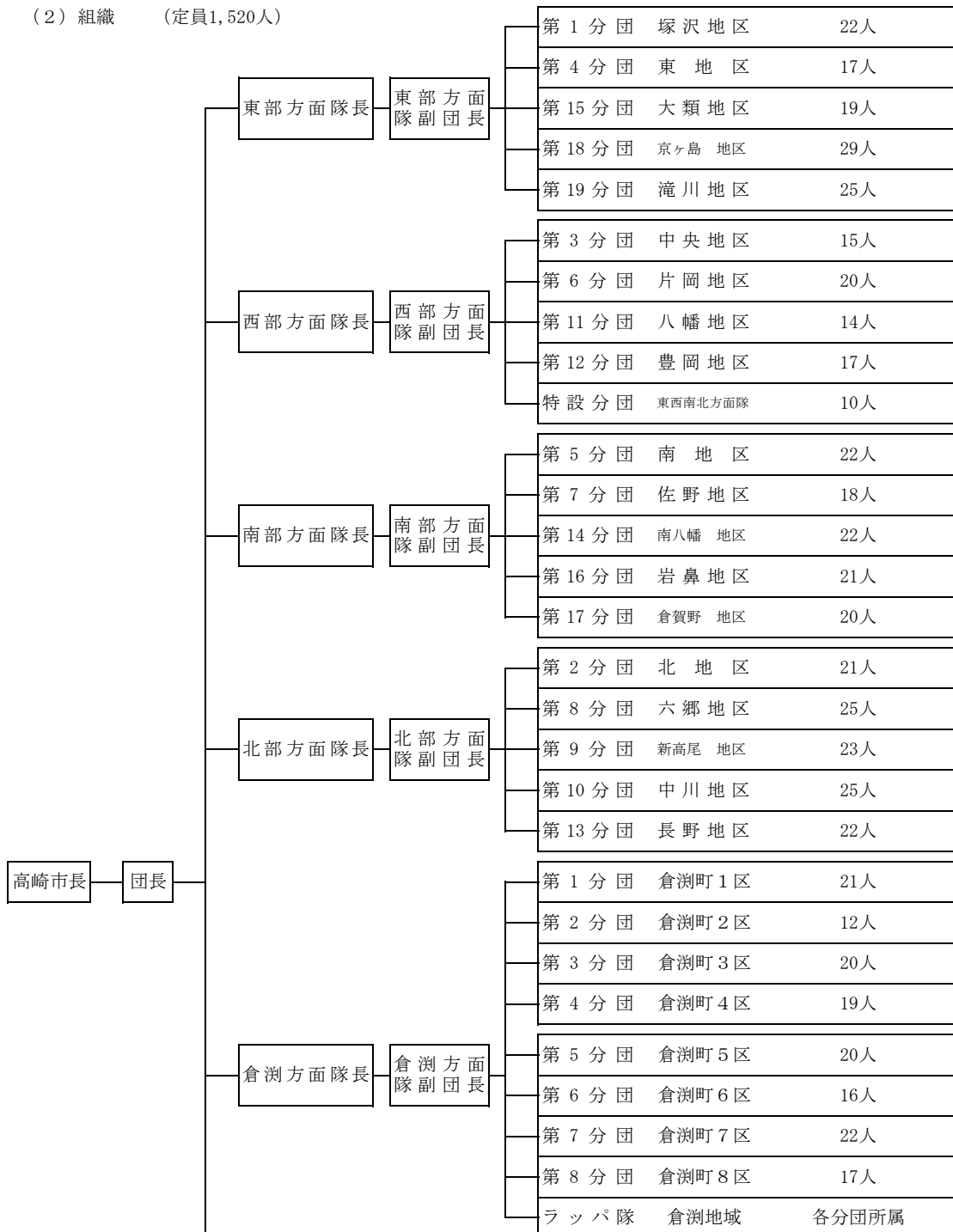
(平成31年4月1日現在)

昭和22年、それまでの警防団が廃止され、高崎市消防団が設置された。団員760人。昭和29年、改組を行い、新市内の分団を40人、旧市内の分団を25人とし、定員を228人とした。昭和30年、新高尾・中川・八幡・豊岡・長野村の合併に伴い、第9分団から第13分団まで、5個分団が新設され定員388人とした。昭和31年、八幡・大類村の合併に伴い第14分団、第15分団を設置、定員を508人とした。昭和32年、岩鼻村の合併に伴い、第16分団を設置、定員548人とした。昭和35年、改組を行い各分団の定員を25人とし、副団長1人増員、定員429人とした。昭和38年、倉賀野町合併に伴い第17分団を設置、定員を463人とした。昭和40年、群南村合併に伴い、第18分団、第19分団を設置、定員を553人とした。昭和44年、副団長を4人、定員554人とし、方面隊別担当区域制を導入した。

平成18年1月23日の倉渕村・箕郷町・群馬町・新町の合併、平成18年10月1日の榛名町の合併、平成21年6月1日の吉井町の合併に伴い、それぞれ合併町村の消防団を倉渕・箕郷・群馬・新町・榛名・吉井方面隊とし、旧町村時の分団をそのまま引継ぎ合計62個分団、定員を1,520人とした。なお、吉井方面隊は平成24年4月1日に12個分団から7個分団に再編し、分団数は57個分団となった。

平成25年10月1日には、消防団にとって組織の活性化、次世代の担い手育成などを目的として学生分団を発足し、分団数は58個分団となった。

(2) 組織 (定員1,520人)



箕郷方面隊長	箕郷方面 副隊長	第1分団	箕輪地区	24人
		第2分団	車郷地区	20人
		第3分団	柏木沢・生原地区	21人
		喇叭特設分団	箕郷地域	10人
群馬方面隊長	群馬方面 副隊長	第1分団	群馬南部地区	45人
		第2分団	群馬中央地区	45人
		第3分団	群馬北部地区	45人
		ラッパ隊	群馬地域	各分団所属
新町方面隊長	新町方面 副隊長	第1分団	1区、2区、3区の一部、8区の一部	16人
		第2分団	5区、6区、3区の一部、4区の一部、8区の一部	17人
		第3分団	7区、3区の一部、4区の一部	14人
		第4分団	9区、10区	17人
榛名方面隊長	榛名方面 副隊長	第1分団	榛名山・榛名湖地区	15人
		第2分団	上室田地区	16人
		第3分団	中室田地区	20人
		第4分団	下室田地区	23人
		第5分団	上里見地区	21人
		第6分団	中里見地区	15人
		第7分団	下里見・上大島地	20人
		第8分団	本郷地区	16人
		第9分団	宮沢・十文字地区	22人
		第10分団	神戸・三ツ子沢地	20人
		第11分団	高浜・白岩地区	22人
ラッパ隊	榛名地域	ラッパ長1人 他各分団所属		
吉井方面隊長	吉井方面 副隊長	第1分団	1区、10区、11区	25人
		第2分団	12区、13区、14区、15区	21人
		第3分団	16区、17区、18区、19区、20区、21区、33区	30人
		第4分団	22区、23区、24区、34区、35区、36区	13人
		第5分団	25区、26区、27区、28区、29区、30区	29人
		第6分団	5区、6区、7区、8区、32区	32人
		第7分団	2区、3区、4区、9区、31区	16人
学生分団				37人
本部付き女性団員				12人